

横浜新緑総合病院 薬剤部のおもな業務

調剤業務（投薬）



薬剤管理支援システムと電子カルテにて薬歴をチェックします

入院調剤が中心です。（外来は夜間救急対応以外は院外処方せんを発行しています）

処方監査

全ての処方箋は薬歴（薬歴管理システムを活用）に基づく処方監査を行い適切（重複投与・投与禁忌・相互作用・アレルギー・副作用など）かどうか確認し、疑義がある場合は処方医に確認して疑義を解消してから調剤を行います。

調剤

処方監査を通過した処方箋データは全自動錠剤分包機もしくは散剤自動分包機の制御システムに伝送されていますので、コンピューター画面を確認して分包機を稼働させます。

分包機にセットされていない錠剤やカプセル剤、外用剤などは薬剤師がピッキングして薬剤の取り揃えを行います。

全ての薬剤の取り揃えが完了した時点で、これまでの作業に携わっていない薬剤師が最終の調剤監査を行います。

調剤が終了した薬剤は、各病棟の担当薬剤師が病棟の配薬カート患者さん毎にセッティングをしています。持参薬についても同様です。



作業に携わっていない薬剤師による最終の調剤監査

注射剤調剤業務

注射剤調剤についても内服剤等と同様に薬歴に基づく処方監査を行い適切（重複投与・投与禁忌・相互作用・アレルギー・副作用など）かどうか確認し、疑義がある場合は処方医に確認して疑義を解消してから調剤を行います。

注射剤の場合は、使用期間と総投与量に制限を設けている抗菌薬や血液製剤のチェック、配合変化などを慎重に確認します。



アンプルピッカーでの取り揃え

処方監査が終了した注射処方データはアンプルピッカーに伝送し、ピッキングを行います。ピッキングマシンに装填されていない注射剤や輸液ボトルなどは薬剤師が取り揃えます。

末梢輸液のミキシングは現在投与直前に病棟で行っていますので中心静脈から投与される処方と抗がん剤について薬剤部にてミキシングを行っています。

また、抗がん剤は作業者を被曝から守るため、すべて閉鎖式デバイスを用いてミキシングをしています。



クリーンベンチでの輸液混合調製



外来化学療法室に設置された安全キャビネット
で閉鎖式デバイスを用いた抗がん剤の
ミキシング